

## 「モンチ・アブラジーヴェル養護学校通学用マイクロバス整備計画」 供与式

2011年5月10日、モンチ・アブラジーヴェル障害者を支える親と友の会(APAE)に対する我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式が開催され、式典にはルイス・カニエオ会長、ヴァンデルレイ・サンタナ市長はじめ来賓、協力者、関係者等で約120名が参加しました。

カニエオ会長は「東日本大震災を乗り越えられた日本に対して敬意を表し、長年を通してブラジルからの出稼ぎ労働者を受け入れてくれたこと、農業分野において日系人がブラジルの発展に大きく貢献したことに感謝すると共に、障害者が安全で快適に通学できるマイクロバスに対する資金協力の心から感謝する。」と祝辞を述べました。

大部総領事は「100年前に日本移民が渡伯して以来、日本人はブラジル人と共に働き、ブラジル社会の成長に貢献してきた。日本移民をこの地に親切に迎え入れてくれたことを日本政府として大変感謝しており、バスの供与を通じてブラジル社会に役立てることを誇りに思う。日本は3月11日の震災・津波によって14,000人が命を落とし、10,000人が未だ行方不明という第二次世界大戦以来の大きな災害を受けた。しかし、人々はブラジルに移住した日本移民同様に努力と忍耐でこの状況を乗り越えるであろう。ブラジルと日本は他に類を見ない特別な関係にある。現在も日本はブラジルへの感謝の気持ちを持って協力を継続しており、これからも日伯両国における好関係の益々の強化を期待する。」と挨拶しました。

挨拶後、マイクロバスの序幕、児童たちのダンスや歌の発表が行なわれました。



(右から)カニエオ会長、サンタナ市長、総領事夫妻



総領事とカニエオ会長によるマイクロバスの序幕

## 案件のプロフィール

案件名:「モンチ・アプラージーヴェル養護学校通学用マイクロバス整備計画」

被供与団体:モンチ・アプラージーヴェル障害者を支える親と友の会

プロジェクト実施地:サンパウロ州モンチ・アプラージーヴェル市

契約署名日:2010年10月22日

供与額:約176,000リアル

**案件概要:**モンチ・アプラージーヴェル APAE は 1965 年に設立され、現在 74 歳までの 88 名の知的・身体的障害者に対して教育や医療・福祉活動を行っています。車椅子を必要とする約 29 人の重度・運動障害を持つ生徒たちの送迎は現在、市役所が提供するバンで送迎していますが、この車両には車椅子の昇降機及び固定設備がなく、職員等が生徒を抱きかかえながら昇降作業を行っており、生徒に苦痛が生じたり、転倒などのアクシデントが発生する危険性がある上、職員等の身体負担が大きいなど、多くの懸念材料を抱えています。今回の協力は、生徒の安全な通学を可能にするため、通学用マイクロバスの整備に対し支援を行うもので約 176,000 リアルをわが国が無償資金協力を行いました。

供与品目:マイクロバス(車椅子昇降機付)



供与されたマイクロバス

